医療関係者が居場所づくりで協力

フレイル予防に効果あり

コミュニティー交通 悲願の本格運行

川崎・平地区で週2日

川崎市宮前区平地区の住民や医療関係者が運行実験を重ねてきたコミュニティー交通「つばめ号」が2日、本格運行を始めた。高齢者のフレイル（心身の虚弱）を防ぐ取り組みが並行して進められ、全国的にも珍しいケースとして注目される。関係者は「交通手段と居場所の一体的な提供が、高齢者の健康維持につながることが認められた」と喜ぶ。（佐藤圭）

この日、宮前区役所向丘出張所で出発式が開かれ、運行主体の住民組織「平・五所塚コミュニティー交通地域協議会」、健康啓発イベントを展開してきた任意団体「つばめフレンズ」の関係者らがテープカットで祝った。協議会会長の高見創さん(75)は「本格運行は住民の悲願。高齢者らの健康づくりに生かしたい」と笑顔を見せた。

定員4～6人の乗り合いタクシー方式を採用。月曜と金曜の午前10時～午後2時、5・1キロの周回コースで1日8便運行する。運賃は300円。市が運行経費の3分の1補助する。市内のコミュニティー交通の本格運行は6例目、宮前区内では3例目となる。

市北部に位置する平地区はエリア人口約5千人のうち、65歳以上は3割強に当たる約1700人。高台にある市営高山団地は道幅が狭くて路線バスの運行が困難なうえ、麓に立地する商業施設や医療機関との高低差は約50㍍に達し、移動手段の確保が課題だった。

そこで団地住民らが2017年に地域協議会を設立。活動はコロナ禍の影響で一時停滞したが、22年に実証実験がスタート。各年度ごとに半年程度の試行運行を実施し、採算性や住民のニーズを探ってきた。

一方、「交通手段だけでなく、外出への動機づけには居場所が必要では」と考えた地元の鎌田クリニックなどの医療関係者が24年に立ち上げたのがつばめフレンズ。認知症予防や脳トレなどの講座を月2回のペースで続けてきた。25年からは名古屋大（名古屋市）と連携し、外出・移動の状況と健康状態との相関関係を検証する研究も始めた。

同クリニック看護師の内田久仁子さん(63)は「講座の参加者が運営を手伝ってくれるなど、フレイル予防の効果は年々上がっている」と強調。同大未来社会創造機構特任准教授の有吉亮さん(47)は「通年運行によって長期的なデータを得られ、研究に弾みがつく」と話している。



つばめ号の出発式でテープカットする関係者＝川崎市宮前区で

川崎



神奈川の天気

	きょう	あす
横浜		
海老名		
小田原		

きょうの予想
横浜
降水確率
朝0％ 昼0％ 晩10％
気温
最高19度 最低13度
北のち東の風

海老名
降水確率
朝0％ 昼0％ 晩10％